

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム第 51 回会合

発言録

2024 年 7 月 8 日

【加藤】 それでは、定刻になりましたので、まだこれから参加される方もいらっしゃると思いますが、第 51 回目の活発化チーム会合をスタートしたいと思います。今日はお忙しいところ、まさにお暑いところ、御参加ありがとうございます。山崎さんに御用意いただいた議事次第に沿って進めさせていただきます。

最初に、日本政府から御報告いただくということで、飯田様、御参加いただいていると思いますが、いかがでしょうか。お願いできますでしょうか。

【総務省国際戦略局（氏名不詳）】 すみません。飯田は今少し外してしまして。

【加藤】 そうですか。

【総務省国際戦略局（氏名不詳）】 5 分か 10 分したら戻らと思うので。

【加藤】 分かりました。

【総務省国際戦略局（氏名不詳）】 先に進めていただけると幸いです。

【加藤】 分かりました。さっきお名前を発見したので。それじゃ、お戻りになったらということで、次に進めさせていただきたいと思います。

IGF の MAG からの報告ということで、河内さん、先日 MAG に御出張いただいたのですが、御報告等よろしくお願ひします。

【河内】 すみません。では、先月末にジュネーブで MAG の会議とオープンコンサルテーションがありました。ちょっと大したことない議事概要を共有させていただきます。画面共有。これで共有できているでしょうか。大丈夫ですね。見えていますかね。

【山崎】 見えておりますけれども、もうちょっと拡大していただけると。

【河内】 そうですか。ちょっと待ってくださいね。

【山崎】 130%ぐらいにするといいんじゃないですか。

【河内】 130%。これ 130%、これ 140%です。

【山崎】 はい、それで結構です。

【河内】 はい。これ、あれです。すみません。

1 日目、6 月 26 日水曜日、10 時からということで、最初の日はいつもオープンコンサルテーションということで、まず最初にいろんな挨拶とかがあった後、ホスト国から IGF2024 の準備状況のプレゼンがありました。これ、IGF のサイトに載っているんですけども、詳細はそちらを見ていただければと思いますが、ちょっとこれの共有を停止して、こっちを。これですね。

これでちょっと、ホスト国のプレゼンの PDF なんですけども、最初のほうは、前の会議、どこだったかちょっと忘れちゃったけど、でプレゼンしていた、リヤドの例えば温度とか気候とか、この先こんなグローバルなイベントとかがあるとか、いろんな情報、基本的な情報についてです。

このロゴの話も、前回のオープンコンサルテーションだったか MAG 会議だったか忘れちゃったけど、それで言っていました。

この先なんですけど、会議場についてのちょっと詳細な情報が入ってきたので、ここを皆さんに、詳細はまた見ていただければと思うんですけど、この会議場、上から見るとこんなすごい建物らしいんですけど、会議場の見取図ですね。色分けして、こういうふうになっているそうです。

これもそうですね。

これ、メインホールですかね。メインホール、ちょっと呼び名が違うかもしれないんですけど、結構たくさん入ります。1,550 シートだそうです。これ、京都、あそこ、メインのホールは何席だったんですかね。ちょっと覚えていないんですけども。

超豪華な、どっかの宮殿みたいな写真が載っていますけれども、こんな感じだそうです。

VIP ルームとかミーティングルームとかもそうです。

今、準備状況をいろいろ、Parliamentary TrackとかYouth Trackとか、Business Track、High-Level Trackとありますが、この Business Track というのが、ICC BASIS が、ずっと継続的にプライベートセクターとして参加している ICC（国際商業会議所）のビジネスセクター、インターネットガバナ

ンスに関してずっと活動している ICC BASIS が、前回の京都の会議が終わった後に、ICC BASIS の参加メンバー企業にいろいろアンケートを取って、その結果を IGF に提言したということで、要するに、デジタル産業にとってプライベートセクターというのはとても重要なのに、IGF に参加している企業とかが少ないんじゃないか、関心が薄いんじゃないかということで、もっとプライベートセクターに関心をより持ってもらって参加を積極的にしてもらうためにどうすべきかということを考えるために、今年からこの Business Track というのをつくるということになっているそうです。これが1つですね。

あとウェブサイトは、このやった週の翌週には立ち上げると言っていましたけど、ちょっと今できたかどうか、まだできたという連絡は来ていないですが、独自のウェブサイトを立ち上げると言っていました。

この QR コードにアクセスするとどこに飛ぶのかちょっと分からないんですけど、ということで、そういうプレゼンがありました。

ということで、元に戻って、それで、ここら辺はさっきのところですね。参加者からいろいろ質問があって、セキュリティーは大丈夫なのかということをしごく心配している参加者、MAG のメンバーが結構いまして、この間、2月に、ちょっと私は行ってないんですけど、リヤドで1回目のオープンコンサルテーションと MAG の会議が開催されていて、そのとき行った事務局やメンバーからは、全く問題ないというような返答がありました。

それから、ビザの問題は大丈夫なのかという質問があって、それについては、問題ないようにちゃんと対処するというような返事をホスト国の代表の方がしていました。

ということで、その次は NETmundial+10 と WSIS+20 の会議の結果について報告と意見交換が行われたのと、今年どんなことをやるのかということで、Intersessional activities、ダイナミックコアリションとかポリシーネットワークとかベストプラクティスフォーラムとかについて、これは MAG の会議では毎回結構事務局からいろいろ会議で報告がされているんですけども、改めて事務局から報告がありました。これもプレゼンテーションが IGF のウェブサイトに乗っていたと思うので、もし御関心ある方は御覧いただければと思います。

それから、あと定例で、オブザーバーで参加している International organizations からそれぞれ定例の報告が行われました。

それで第1日目で、2日目ですけれども、2日目はMAG会議ですので、この日のほとんどはワークショップの提案の評価についてで、既にそれぞれ40人のMAGが4つのサブグループのテーマ、テーマごとに4つのグループに分かれて、それぞれ1人5、60件評価の作業をして、その結果を集計したのに基づいて、それぞれグループ内でこの会議の前の週にリモートで会議を行って、その評価結果、それでいいのかということで議論した結果で集まっています。それぞれのグループごとに議論の結果を発表して、それについて意見交換して、最終的な採択する提案を決定したということになります。評価項目についての意見交換とかいろいろありましたけれども、どれぐらいのMAGがちゃんとやっているのかという質問があって、これは関心あって、ちょっとここに書いたんですけど、40人MAG(メンバーが)いるんですけど、9人は全くやっていなかったと。全くやっていないだけだと78%なんですけど、そのうち、やった31人のうち何名かが途中までしかやっていないので、トータルでは73%が評価したという結果だったと。去年は70%だったと言って、今年はトータルのワークショップの提案数は203件だったんですけど、去年はトータルの提案数が400件ぐらいあったので、今年の倍あったんです。ということは、一人一人のMAGが評価しなきゃいけない提案数が倍あったんです。去年は100件以上あったんです。なので、それで最後まで終わらなかった人が結構いたんじゃないかと思うんですけど、今年は去年の半分だったので、ちょっと多くて73%だと。大体、毎年70%ぐらいが平均だと事務局は言っていました。ちょっと中の話ですけど。

それから、この日は、あともう一つはメインセッションですね。IGFでいつもMAGが主催してやっているメインセッションについて、どういうテーマでどういうふうにするかという議論を行いました。今年のサブテーマは4つなので、そのサブテーマごとにやるべきなのか、それとも、サブテーマは、今年4つに絞ったこともあって、一つ一つのテーマがすごく広いので、広過ぎるんじゃないかとか、いろいろな議論があったんですけど、最終的には、サブテーマをベースに、そこから絞って何かテーマを考えていったらいいんじゃないかということで、それぞれのサブテーマごとに案を皆さんが出して、ワーディングを修正等して、それこそGoogle Docs上でいろいろ修正等しながら意見交換して、議論をしました。

これについては翌日に持ち越してしまして、翌日もその続きで、もうちょっとワーディングを修正等したんですけども、これも結局、最後は最終的な結論まで行かずに、次回のリモートのMAGの会議、今8月20日の予定と言っていましたけれども、8月に最終的には結論を出しましょうということで、途中で終わっています。

あとは、Parliamentary Trackの準備状況とか、それからHigh Level Leaders Trackの話とか、それからYouth SummitとかNew Commers' trackとか、Judiciary trackというの、これも今年から--去

年、こういうのをやるべきだという意見が出て、今年からこういうのをやるということになったそうです。これは UNESCO と協力してやっているということで、ちょっと今年やってみて、来年以降どうするか検討すると言っていました。

Business Track の話は、先ほど言った ICC BASIS から意見として出したものをトラックにしましょうという話です。

こういうふうにトラック結構増えていまして、トラックたくさんあり過ぎて、こんなにたくさんある意味あるのかとか、もうちょっと絞ったほうがいいんじゃないとか、いろいろ意見があったんですけど、これは Capacity Building の意味とか、特にグローバルサウスなどでの情報交換の意味とかもあるので、重要な役割があるということで、減らす必要はないのではないかという結論になりました。

あとは、NETmundial+10 で最終声明として出した中に、サンパウロ・マルチステークホルダー・ガイドラインというのが、SPMG と略していますけれども、あって、その中で、SPMG、このガイドラインの depositary/caretaker としての IGF というのがワーディングとして出てくるんです。それを受けて、MAG でどういうことをしていったらいいかという議論をしまして、一応、これは中の文書なので、最終版にもなっていないので、ちょっと一瞬お見せするだけなんですけど、すみません。ちょっと待ってください。すみません。ちょっと待ってくださいね。これでちょっといっていますかね。これ、ちょっと今 MAG で作っている文章で、まだ途中なんですけど、要するに、何かしらボランティア、現役の MAG だけじゃなくて、OB とか OG とか、いろんな方が入ってもいいんじゃないかという話なんですけど、MAG 以外の方でもいいんじゃないかと思うんですけど、どういう形にするかというのは結局、最終的な結論はまだ出ていないんですが、ポリシーネットワークにするのか、ダイナミックコーリションじゃない。BPF、ベストプラクティスフォーラムにするのがいいのか、それともワーキンググループもいいんじゃないかとか、いろんな意見が出たんですけど、そういうような形でグループをつくって、そこでいろんな取組をしていったらどうだと。例えば IGF でマルチステークホルダーをどのような形でやっていて、どのような成果が出ていて、どのような課題があるのかとか、そういうところを洗い出すなどのそういう取組を一応 2 年ぐらいの—2 年というのは別に、どうしても 2 年じゃないといけないというわけじゃないけれども、短過ぎても意味がないし、長過ぎてもよくないので、取りあえず 2 年ぐらいのタームでやったらどうだというような提案を今作ってまして、これ、まだ最終版じゃないんですけど、そういうふうにやったらどうだという意見が出て、皆さんで意見交換しました。これも引き続き議論していく予定になっています。

そんなところですかね。それぐらいだったと思います。もうこれで終わりだと思うので。そうですね。あとは、それぞれの活動、インターセッショナルワークとかの活動についての報告等をしたので。

それで、1つ、会議の最後に、2025年のIGFのホストはどこになった、決まったのかと聞いた人がいて、そしたら、チャンゲタイ（国連IGF事務局長）が、まだ今検討中というか、国連事務総長の返事待ち中だと言っていました。どこにしたいということに対する返事待ち中なのか、ちょっと私は聞けなかったんですけど、ということで、まだ決定はしていないという結果でした。

以上です。何か御質問等あれば。

【加藤】 どうも河内さん、ありがとうございます。皆さん、御質問いかがでしょうか。

【前村】 前村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】 はい、お願いします。

【前村】 質問じゃないんですけども、NETmundial+10の成果を真正面から取り組んでいただいて、本当にありがたいです。ありがとうございます。確かに、そうですね、既存の枠組みでやるんだったらBPFっぽいかなと私も思いました。

以上です。

【河内】 それは、BPFがいいんじゃないかというのは、MAGの会議に多分オブザーバーで参加していたAvri Doria（元MAGメンバー）が言っていました。

【前村】 なるほど。アプリは今MAGにいるんでしたっけ。

【河内】 いやいや、MAGじゃないです。過去のMAGで.....。

【前村】 なるほど。そういうことですね。

【河内】 職歴見ると、IGFの事務局もやっていたみたいを書いてあったと思うんですが、私ちょっと、過去はあまりよく知らないので分からないんですけど。ただ、なので、リモートで単にオブザーバー的に参加してただけだと。

【前村】 なるほど、なるほど。分かりました。ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

山崎さんから手挙げていただいておりますが、山崎さん、どうぞ。

【山崎】 質問ですけど、Judiciary TrackとBusiness Trackが新たにということでしたけれども、まだ議論中だとは思いますが、例というか、どういう方々が主に参加して、どんな内容なのか、分かる範囲で結構ですので教えていただければと。

【河内】 すみません、ちょっと私、今検討中だと言って、私それに直接あまり関わっていないので分からないんですけど、Business Trackのほうは、要するに、産業界の人が関心を持つようなセッションとかをすることだと思えるんですね、トラックをつくるということ。なので、その中身をどういうふうにするかは今、それこそICC BASISと事務局で相談中なんじゃないかと思えます。すみません。もし何かまた分かったら御報告します。

それから、Judiciary Trackは、要するに、グローバルな司法的、インターネットガバナンスに関わる問題だと思うんですけど、司法的な問題が起きたときにどういうふうに対応するかとか、UNESCOがそういう取組を昔からずっとしているから、UNESCOと協力してそのトラックを計画していると言っていたので、すみません、ちゃんと答えになっていないですね。ちゃんと調べて、また報告します。すみません。

【山崎】 ありがとうございます。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方。

【前村】 前村ですけれども、いいですか、コメント。

【加藤】 はい、お願いします。

【前村】 Judiciary Trackはちょっとすごく気になるんですね。というのも、AFRINIC問題というのがあって、AFRINIC問題というのは何が起こったかという、AFRINICは結構インターネットのために重要なところなのに、とにかく訴訟合戦であれなんですよ。インジャンクションというむちゃな差止め請求が通っちゃって、それで機能不全になっているんですね。なので、インターネットのことも司法も分かってほしいなとそれ以来思っていたので、インターネットの問題は結構、法曹の皆さんというか、司法の皆さんに分かっていただくのは結構難しいんじゃないかなと思うんですね。一方で、法治主義なので、あんまり法を柔軟に運用するというものでもなさそうなので、それは

何かちょっと、Judiciary Track がどうなっていくのかというのはとても関心があるところですよという感じのコメントです。

【加藤】 ありがとうございます。その辺はまだMAGでも議論されるということですね、河内さん。

【河内】 MAGで議論されるというか、今もうそのトラックをつくって、12月のIGFではそのセッションが多分できると思うので、そのセッションをどういうスピーカーでどういう内容にするかという議論というか、検討を今UNESCOと事務局がしていると言っていたので。

【前村】 なるほど。

【河内】 はい。でも、AFRINICというのはアフリカのあれですよ。その話はしていたと思います。

【前村】 はい。ぜひともに、期待します。

【加藤】 ほかに御質問いかがでしょうか、皆さん。

もしなければ、ちょっと私から一、二点伺いたいんですが、私も今のJudiciary TrackとBusiness Track、興味あったんですが、例えばBusiness Trackという場合は、Parliamentary Trackのように幾つかのセッションを、トラックというからには、やるというイメージなんですかね。

【河内】 そうですね。そうなるんじゃないか。単なるセッションではないので、そういう、幾つか考えているんじゃないかと思います。すみません、ちゃんと確定.....。

【加藤】 いえいえ。そうだとすると、MAGでそれ以上詰めないで、これ、事務局がかなりいろいろ検討して、そういうトラックつくっちゃうんですかね。例えばBusiness Trackの場合、ICC BASISというのは、例えば日本でもそれに相当する、経団連とか、そういうところともやり取りがあるのかという意味では、どういうセッションをやるかの検討をこれからどうやるのかなというのに興味があったんですけどね。

【河内】 日本は、例えばうちがICC BASISのメンバーになっていますけど、ICC BASISを通した何か働きかけとか、そういうことは可能だとは思いますが、経団連はあまり関わっていないので難しいかなと思いますね。

【加藤】　　そういうことですか。分かりました。

それともう一つ、これはひょっとすると前村さんにも伺ったほうがいいんですけども、先ほどのサンパウロの話、SPMG ですか。これ、2 年の期間で今後検討を考えるとというのは、IGF 自身がまだ2 年以上続いているという前提なのかなという。

【河内】　　前提だと思います。

【加藤】　　25 年を越えちゃう前提でもうみんな議論が進んでいるのかなとちょっと思ったんですが。

【河内】　　2 年というのも、多分、今年もう半分ぐらい終わっちゃっていますけど、今年を含めて1 年と。一応 12 月ぐらいまでじゃないですか、IGF のこのタームは。なので、今年だけじゃなくて、来年、25 年中程度にしか考えていないと思うんですけど。

【加藤】　　分かりました。2025 年にちょうど 20 回の会議が終わるときまでにということなんですね。

【河内】　　だと思います。あまり深く考えていないと思います。

【加藤】　　分かりました。それで、サブスタンス的に IGF をこれに基づいて何か変える提言をするみたいな活動になるんですかね。

【河内】　　いや、IGF を変えるというよりは、IGF でやっている活動によって、マルチステークホルダーは重要だというのは GDC の中にも出てきますし、SDGs にも関わる重要なものかどうかというところは一応、認められているっておかしいですけど、そんなに異論がないということで、それを IGF では実践していろいろこれまでもやってきていて、だから、IGF ではこんな重要なことをやっているんだとか、そういうことを証明するというか、何かそういうふうにしていったらどうだと、そういう考え方だと思います。

【加藤】　　分かりました。ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。

特になければ、河内さんからの御報告はこれで終わって、飯田様の名前、また見えたんですけど、飯田さん、もしよろしければ、何か政府からアップデートいただくことはございますでしょうか。

【飯田】 遅くなりまして、失礼しました。飯田です。

私のほうからは、MAG の関係はあまりないんですけども、GDC の関係は大分煮詰まってきたまして、先週ニューヨークで続けて協議が行われたと聞いています。インフォーマル・インフォーマルというよく分からない名前の会合が 2 日間あって、いろんなパラ（グラフ）を。ただ、全部だーつとフィックスしていっているような状態ではなくて、まだそれぞれいろんな意見が出まくっている状態なので、とてもハイレベル何とかに間に合って妥結しそうな感じはないのですが、そうはいつでも、何が起きるか分からないので、外務省と一緒にウオッチしているというか、急いで対応しているところです。今回も、今日、急いで次のバージョンに対するコメントというのを検討しているところでして、内容的には議論のかなりの部分が AI のところに集中してしまっていて、ほかあまり議論されていない感じがあって、それ自体も懸念しているんですけども、AI のところは 4 つの問題があって、科学パネルをつくるつくらないとか、ファンドをつくるつくらないとか、あと、定期的な対話、政府間対話をやるやらないとか、そういうことが課題になっていまして、基本的にインターネットと同じようにマルチステークホルダーでインクルーシブにやるべきだということと、既存のいろんな取組がもういっぱいある中で同じようなものをつくる必要はないということをもって対応しているところです。先進国では基本的には同じような感じで協調してやっているんですけども、数でいうと、やはり途上国の意見が多いので、現地はなかなか苦戦しているということのようで、これからだんだん妥協点を見つけていくことになるかと思っています。結局、いろんな分野間のバーターみたいなことも起きそうなので、我々としては、コネクティビティーとか、あるいはインターネットガバナンスとか、こういうところはしっかり取って、AI、国連がやりたいのであれば、ある程度しようがないのかなと個人的には思っているんですけども、結局、全体見ながら、かつ、ほかの国の対応ぶりも見ながら決めていかないといけないので、今後しばらくの交渉期間でインテンシブな対応が必要になるかなと思っています。何分、国連側もいろいろカレンダーを言うんですけど、そのとおりに全然ならないので、見通しがよく分からなくて、かつ、直接交渉に参加していないということもあり、非常に情報も十分ではない中でやりにくさがあるんですけども、我々も基本的に IGF にマルチステークホルダーの精神で全体に対応していければと思っていますし、最終的にはこれ、コネクティビティーとかデジタルデバインドのところ解消するというのが本来の最大の趣旨だというふうに今でも思っているので、そういう健全な方向に話なるべく向いてくれればいいなと。そういう限りにおいて、AI というのも入り得るのかなと思って見ているところです。非常にポリティカルな要素も強くなってしまっているので、今後どういう展開になるか必ずしも読み切れないんですけども、いずれにしても、この GDC で出てきたことが来年の WSIS+20 のレビューにもつながっていくと思いますので、皆さんとも意見交換しながらやっていきたいと思っています。

IGF のほうでいうと、リーダーシップパネルもかなり関心を持っていて、いろいろとそことも意見交換していますので、有志国とリーダーシップパネルとかとも協力してこれから対応する。GDC 自体はもうかなり最後のせっぱ詰まった段階とは思いますが、それでも、先行きもある話なので、なるべく仲間づくりも進めながら対応していっているところです。

ということで、ちょっと抽象的な御報告しかできなくて申し訳ないんですが、今そんな状態で、連日ドラフティングが現地では行われているような感じになっています。

私のほうからは以上です。

【加藤】 飯田様、ありがとうございます。

飯田様への御質問、山崎さん、お願いします。

【山崎】 できれば、で結構なんですけれども、可能であれば、で結構なんですけれども、今、政府間でいろいろガチャガチャ検討ということなので大分先にはなると思うんですけど、政府以外のステークホルダーに対して GDC の最新バージョンですか、我々が認識しているのは revision 2 ですが、これについて何か説明セッションとか意見を言う機会とか、そういうのはありそうなんですか。それとも、もうそういうのはすっ飛ばして、HLPF でしたっけ、フォーラムに、議論のテーブルに持っていかれてしまいそうなんですか。もしその辺、差し支えなければお教えいただければと思います。

【飯田】 全然差し支えはないはずなんですけど、情報がなくて、普通に考えると、そういう過程があつてしかるべきだと思うんですけど、今のところ、そういう話が出ていない状態です。結局、早く妥結しようということで政府間協議自体を一生懸命急いでやっていて、これ自体も何かちょっと回転が速過ぎる感じもあつて、未消化なまま進んでいますので、今みたいな、全てのステークホルダーに共有して意見を聴いたりする段階がちゃんと来るのかどうか、若干我々も疑いながらも、あつてしかるべきだと思って見ているところです。ですので、何か情報あればまたお伝えしたいと思いますが、残念ながら現時点ではそういう話が出てはいないという状態です。

【山崎】 ありがとうございます。そうですね。大変なのは分かりますし、あと、High-Level Political Forum はなくても、9月が Summit of the Future なので、それだけでもかなりスケジュール的には大変だと思いますけれども、可能でしたら、政府間協議の場で、政府以外のステークホルダーにも意見を求める機会を提供すべきである的な主張をしていただけますと、我々政府以外の者としてはすごくありがたいと思う次第です。

【飯田】 その辺はちょっと外務省さんとも相談して、なるべくそういう意見が出るように対応してもらおうと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

ほかの方、いかがでしょうか。特にございませんか。

ちょっと今の山崎さんの御質問に関連して、もし分かればなんですけれども、そういう意味でいうと、ぎりぎりまでいろいろ検討を政府間でやっていただいて、9月のニューヨークでの会合というのは、まず、一般の人も参加して何かコメントするのでしょうか。それとも、参加はできるけれども、もう結論を発表するだけの会なんのでしょうか。9月の会というのはどんな感じになるのか、ニューヨークの会ですね。もしイメージが分かれば教えていただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【飯田】 残念ながら、あまり情報がないところでして、フューチャーサミットなるものがあることは分かっている、そこは閣僚なり首脳なりが出るような場なんだろうと思うんですけれども、いろいろイベントは多分ハイレベルウイークの中でもあり得ると思うんですが、どういう場が設定されるのか、あるいはその前に何かそういう会合があるのかというのも、恐らく、教えてくれないというよりも、国連自体が決められていないんじゃないかなという感じがありますので、できればそういうふうにしていくべきだということはなるべく言っていきたいと思うんですが、みんな目の前の文章、作文に振り回されている感じがありまして、ちょっと懸念される状態ではあります。なるべくそういう場を設けていくべきだということは言っていけるように頭に置いていきたいと思います。

【加藤】 ありがとうございます。

皆さん、いかがでしょうか、御質問。飯田様、せっかく出ていただいているんですが。

これ以外に特に IGF の活動について何かアップデートとか、そういうことはございませんか、今。

【飯田】 すみません。ちょっと我々、今年の IGF に向けて調査をやったりしてはいるんですけれども、まだ皆さんと共有できる段階でもないの、現時点ではこのくらいでございます。

【加藤】 分かりました。ありがとうございます。もし皆さん後で御質問があれば、飯田様、いらっしゃる間、お願いしたいと思います。

それでは、次の議題に移らせていただきたいと思います。次は NRI の状況ですけれども、これはいきなり山崎さんに振ってよろしいですか、今。

【山崎】 はい、大丈夫です。

【加藤】 よろしく申し上げます。

【山崎】 ちょっと資料を。

【加藤】 はい。議事録みたいなのができていると思います。よろしく申し上げます。

【山崎】 6月19日水曜日に第6回のNRI会合が開かれました。最初、開始した当初は20名程度で、その後もうちょっと、三十数名だったと思いますけれども、ちょっと記録していなくて、最大何名だったかはちょっと覚えていません。日本からは我々3名とも出席して、加藤さんも河内さんも御出席いただいています。

議事の内容ですけれども、いつもどおり、最初に歓迎と自己紹介がありまして、それから、大半の時間は2番のNRI Main Session、これの計画に費やしました。その中でも、a) Policy Questions、議論するための質問ですけれども、この8つ案が出ました。NETmundial+10、WSIS+20、GDCなどのプロセスがインターネットガバナンスとマルチステークホルダーモデルにどう影響を与えるか。ii) 番は、河内さんのMAGの報告でもありましたけど、NETmundial+10の原則をどう運用していくか。3番目がグッドプラクティスの例ということで、既存の例にはどういうものがあるか。4番目が、インターネットガバナンスプロセスとマルチステークホルダーモデルはデジタル公共政策をどう推進するか、それらは従来の政府間プロセス、多国間プロセス、これとどう相互作用するか。5番目が、インターネットガバナンスとマルチステークホルダーがどう進化してきたのか。6番目が、インターネットガバナンスに関する議論とか話合いに、より多くの人に参加してもらうにはどうすればよいか。7番目が、国家とか地域レベルで、このモデルにどういう声を反映させる必要があるか。8番目が、マルチステークホルダー・アプローチは、危機が起きたときのインクルージョン（包摂性）とインターネットインフラの回復力の道筋をつけることができるかという点です。

意見交換として、重複しているものがあると。i) とii) は一緒にしたほうがいいのか、vi) とvii) は一緒にしたほうがいいのか、あとviii) については表現を事務局が検討するとかですね。ii) で“operationalize”という原文があって、それはちょっと動詞を換えたほうがいいんじゃないかということで、useというのが一番支持されているようだという感じでした。

最後の5分ぐらいで会議構成について議論されたんですけども、事務局からこの箇条書のような案が出まして、特に反対意見は出なかったんですが、何せ全部で5分しかなかったので、意見があったらメーリングリストに送ってほしいということでした。まず、司会者が挨拶、話者の紹介をすると。

各地域から最大7名の専門家が発言する、これが35分。フロアの参加者との質疑応答が45分で、司会者が閉会で5分、こういうふうになっているということですね。その地域というのは、アジア、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカもしくはカナダ、ラテンアメリカ・カリブ海諸国、中東・北アフリカ地域の7地域で最大7名ということなので、各地域から1人ということになるんだと思います。大体そんな感じでした。

セッションの表題なんですけれども、これは次回の、今月のNRI会合で決めることになりました。今月の会合は29日月曜日に開催予定です。

この会議の場ではなくて、後日メーリングリストに来たんですけれども、各NRIに対して、今年各NRIの年次会合についてIGFのカレンダーに載せたいので情報を共有してほしいという依頼がありました。ということで、我々も日本で年次会合をどうするかということを考えなきゃいけないんですけれども、その点については後ほど加藤さんから提案いただけると伺っております。

私からは以上ですけれども、加藤さん、河内さん、何か補足があればお願いします。

【加藤】 補足というか、リマインダーですけれども、今年のサウジアラビアでNRIとして3つの個別セッションと1つのメインセッションの開催をする、その内容をどうやって運営するかというのがこの二、三か月やった議論で、今回は、その個別の議論はもう既に大体の枠が決まっています、今回はメインセッションをどうするかということで、やはりメインとして取り扱うのはマルチステークホルダーの話だろうということで、そこを詳細に詰めたということだと思います。

それから、最後に触れていただいた、各国のIGF、どういうスケジュールかということで、その後、NRIのメーリングリストで、いろんな国から、今年はいつこういう形でNRIの各国のIGFをやりますというのが出ていますので、ぜひ日本からも、やるのであれば早く、やりますよという通知だけでければなと思っています。

以上です。

河内さんからも何かあれば。

【河内】 いえ、大丈夫です。ありがとうございます。

【加藤】 山崎さん、ありがとうございました。御質問等ございますでしょうか。皆さん、特にありませんか。

もしこれでよろしければ、次の議題に移らせていただきたいと思います。先ほどから出ている、MAG、NETmundial、WISIS+20、GDC、NRI、大体これでいろいろな会議の状況の報告もあったと思いますが、その辺で何か、その他の会議とかということで付け加えていただくことはございますでしょうか。

前村さんから、NETmundial のその後とか何か、特にございますか。先ほどの IGF 側でのフォローというのはあるわけですが、それ以外に。

【前村】 ありがとうございます。NETmundial 側からは静かなものです。今、NETmundial として何をやっているかという、+10 ステートメントの訳出をしているんですよね。それで、JPNIC からは日本語版をさっさと出して、2 週間ぐらいで出しましたかね。それはすごく、すごく喜ばれて、その後にブラジル人はポルトガル語をやったんですけども、その後が続いてこなくて、ドットアジアは中国語をやるやると言って、やるやる詐欺になっているだけなので、そんな感じです。あとは、いろんなところで GDC の revision2 の中でも NETmundial+10 のことを、+10 と正確には書いてくれていなくて、NETmundial principles と書いてあるんですけども、そんな感じで参照はされていますので、関係者としては胸をなで下ろしているという感じです。

すみません、雑多なアップデートですけども、そんな感じで、割と静かですということです。以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

特にほかの会議とか、いろいろな動き、御報告いただくことはございませんでしょうか。

もしなければ、次の議題の本チームの今後ということで、またこれも、今日も簡単な状況報告になりますけれども、よろしければ、まず私から報告させていただいて、あと前村さんとか立石さんとか、御参加の方で追加していただくことがあればお願いしたいと思います。前回、第 50 回の活発化チーム会議以降、山崎さんに整理していただいたとおり、14 回目の準備委員会の会合、それから 15 回目の準備委員会の会合がございました。

6 月 20 日に議論した中で、特にこの活発化チームといいますか、我々の活動、今はそれが新しいドラフトの中で、御記憶の方もいらっしゃると思いますが、本会議というのか、あと NRI としての日本での組織との関係、この辺が今 1 つ大きな議論の中心になっておりまして、その辺の議論を 6 月 20 日の準備会合でやっていただきました。

6月20日の会合を受けて、さらに6月26日にJPNICさんから、それじゃこうしたいほうがいいという定款の修正案、もともと、御記憶だと思いますが、総務省のほうで、JPNICさん、それからこの活発化チームで過去議論していた案、その辺をいろいろと考慮して折衷案のようなものをつくっていただいたんですが、それを受けて6月26日にJPNICさんからまた修正の定款案というのが出まして、同時に、6月28日だったと思いますが、JAIPAさんからも同じように修正の御意見が出ました。その2つを受けて第15回目の準備委員会を7月1日にやりまして、そこでかなり具体的に論点をまとめていただきまして、これは論点整理を、今日おいでになりませんが、堀田さんとか、いろいろと御苦労いただいて論点整理をいただいて、いろんな関係者の方々がそれについてどう思うということ議論していただいて、かなり、先ほどのNRIとの関係とか、この活発化チームの関係と、それから、法人化するわけですから、理事会や評議員会のような、そういう新たな組織ですね。それから、法人の場合は、社員、社員総会、そういうものが組織上必要になるわけですが、そういうものとの関係のところを議論いただいて、そこでかなり議論が煮詰まってきたと思います。

それを受けて、つい先日、7月5日にJAIPAさんがさらに修正版、JAIPAさんが7月1日に議論した内容を受けて、これが折衷案じゃないかというような、修正案といいますか、統合案とJAIPAさんは言っているんですが、統合案というのが出されました。今それを、今までの流れからして、JPNICさんからもう一度検討していただいて、次の会合を行うということで、次の会合は、たしか山崎さん、19日に決まったんでしたよね。7月19日だったと思います。

【山崎】 はい。7月19日金曜日に開催です。

【加藤】 の夜7時からですね。

【山崎】 夜7時から。

【加藤】 それでかなり、次まとまってくるのかなと期待しておりますが、次の会合を7月19日に、16回をやるということを予定しています。

ということで、流れだけ整理させていただいたんですが、前村さんや立石さんから何か付け加えていただくこととかございますでしょうか。

【前村】 それでは、前村から。

的確に今の準備委員会の状況をお伝えいただいたと思います。JPNICとしてはといいますか、加藤さんから御案内があったように、JAIPAさんの統合案に対して今コメントを考えているところなんで

すけれども、全体的には、法人としてきちんと持続的に、もろくない、きちんとした法人をつくるという観点と、もう一つは、NRI のツールキットというものに従って、NRI ってこうやるんですよと書いてあるんですけれども、それに準拠した形の NRI をきちんとつくるんだと、この2つのポイントがありますので、その2つは JPNIC としてもぜひともそういうふうにしたいと思っているところなので、そんな感じで定款の議論が収束しつつあるところを喜ばしく感じながら一生懸命今作業しているところです。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

ほか、立石さんとかいかがですか。よろしいですか。

【立石】 すみません。立石です。

私も同じように見てはいます。ただ、マルチステークホルダーモデルというのをどこまでどうやって担保するかということについて、JAIPA の中でも話も、というか、若干意見も違ったりはしたりもするんですけれども、そこはこだわるポイントかなと思っていて、その辺の見極めをするというところかなと思っています。

以上です。

【加藤】 ありがとうございます。

じゃあ、御質問ございますか。この準備委員会に御参加でない方で、ここはどうなっているのかというようなことで御質問あれば、関係者の方からお答えいただきたいと思いますが、特にございませんか。もし本当にこの活発化チームの全体会議のほうに御相談なりする必要があると思われることがあれば、メールでもまた御相談させていただきたいと思います。

ということで、それじゃ、次に移らせていただいて、ちょっと議題にはないのですが、さっき山崎さんがちょっと触れていただいた、今年の IGF 会合、日本 IGF 会議というのをどうしようかということをごここでちょっと、頭出しだけですけれども、御相談したいと思っています。先日の NRI の会議でも、先ほど御報告があったとおり、各国の NRI がこういうスケジュールで各国の IGF を準備しているというお話があって、決まっているところは教えてくれということ言われているんですが、考えてみると、12月のサウジの前、だんだんともう時間がないタイミングになってきますので、もし、大体このぐらいの時期にこんな形の IGF 会合、年次会合をやるうということのイメージを今日皆さん

からお出しただけであれば、議論させていただきたいと。それに向けて、例年であれば準備委員会をつくるということになりますけれども、そういうことも検討できればいいなと思いますが、いかがでしょうか、皆さん。

沈黙というのは、何となく、例年どおりやろうという意味でよろしいんでしょうかね。

【山崎】 山崎です。よろしいですか。

【加藤】 お願いします。

【山崎】 画面共有していると、手を挙げるボタンが消えてしまって分からないので。

【加藤】 そういうことですか。お願いします。

【山崎】 もちろんやる必要があると思うんですが、ちょっと今年はスタートが遅いので、去年ですとかおとしですとか、もっと、4月とか5月とか早い時期に始まっていたと思うので、かなり加速スケジュールでやらないと間に合わない。いつやるかにもよりますけれども。今年はIGF自体が遅いので、事前会合は11月とかでいいとは思いますが、それでも。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 それでも4か月しかないとする、今までみたいに、準備委員会というか、つくってから、それから皆さんの都合のANDを取って日程を決めたりしていると結構ぎりぎりになるかなと思ひまして、例えば先にもう開催日だけ決めちゃって、それから準備委員募集してやると多少は早くなりますかね。それとも、あんまり意味がないですか。ちょっとその辺、知見の深い方もいっぱいいらっしゃるんで、御意見を伺いたいと思うんですが、それでも。

【加藤】 ありがとうございます。いかがでしょうか。山崎さんの案は、この日にとかというのをもうピンポイントで決めちゃうということですか。それとも、この2週間をターゲットにというぐらいでもよろしいですか。

【山崎】 それは後者でも構わないですね。

【加藤】 多分いろんな.....。

【山崎】 いろんな設定もありだと思っています。いろんな要素があるでしょうから。

【加藤】 多分、今日とかの段階でピンポイントでこの日とか、この2日間とか、まず2日間やるのかどうかとか、その辺も含めて、若干の幅があるとしたら、この週とかというぐらいを皆さん大体コンセンサスを取っておいて、それに対して準備の線表を引くというほうがいいのかなどという気がします。いかがでしょうか。10月後半にやるのか、11月上旬にやるのか、イメージとして、やっぱり11月上旬中にはやりたいですね。11月後半になってくると、もう12月、リヤドが今のところ12月15日からですよ。だから、その1か月前ぐらいをターゲットに。

【山崎】 そうですね、あんまり。

【加藤】 あんまりぎりぎりじゃないほうがいいような気もするんですけどね。

【山崎】 そうですね。ぎりぎりですと、リヤドに行かれる方に。

【加藤】 インプットするのがね。

【山崎】 発表とかお願いする場合に、受けてもらいにくくなるかなという気もします。

【加藤】 そうすると、現実的には11月の第1週、第2週。第1週というのは4日の週、第2週というのは11日の週、その辺ですか。皆さん、いかがですかね。何かその辺にすごく別の会議があって、その辺は避けたほうがいいとか、例えば、前村さん、ICANNの会議がその辺かぶさるとか、そういうことはないんでしょうかね。もう一つ前の週でもいいですけども。

【前村】 ICANN、10月だったと思いますね。

【加藤】 10月ですか。そうすると、11月4日とか11日の週あたりだったら、そのうちの2日間とかでも大体大丈夫ですかね。

【前村】 いいかげんなことを言わずに、ちゃんと確認しよう。ちょっと待ってください。

【加藤】 山崎さん御指摘のとおり、ちょっとスタートが昨年に比べるとゆっくりなので、あまり早めにやりますと、10月中にやりますと言うと、結構厳しいかなという気もするんですけどもね。

【前村】 すみません。11月でしたね。9日土曜日から14日木曜日までがICANN81、イスタンブールです。

【加藤】 イスタンブール、はい。そうすると、その前の週ですか。それと、可能性としては、ぎりぎりになりますけど、もう一つ次の週、18日の週。18日の週でもぎりぎり大丈夫ですかね。

【前村】 18日の週にはインターネットウイークが始まる感じですかね。

【加藤】 インターネットウイークと重なるとやっぱりまずいですかね。

【前村】 そうですね。我々としては、できるだけ。

【加藤】 避けたい。

【前村】 はい。主催とか共催のイベントが重なることはよくないと。大丈夫そうに見えて、やっぱりよくなかったなということを繰り返しているんで、できるだけやらないようにしたいと思っているんですが。恐縮です。

【加藤】 分かりました。そうすると、11月4日の週あたりをターゲットにするということで、もうかなりピンポイント的に、いかがでしょうかね。皆さん、この週は駄目とか。

【山崎】 その週はIETFがあるみたいですけど、何か差し支える方はいらっしゃいますか。差し支えたとすると堀田さんですかね。ただ、今日、堀田さんも高松さんも参加なさっていないようなので、ちょっとお伺いできないから。

【加藤】 そうですね。堀田さん、高松さんはいつもIETFにお出になっているんですかね。

【前村】 堀田さんがIETFに出る可能性がちょっとあります。高松さんはちょっと分かりません。

【加藤】 分かりました。どんどんこれやっていくと。一応、それじゃ、山崎さんの御希望どおり日程までは決まらないけれども、11月4日の週、これ4日が振替休日なので、5、6、7、8あたりという感じになりますけど、いかがですか。今日、仮決めするとして、そこをターゲットにするというのは。多分、10月まで戻っちゃうと結構厳しくなってくるような気がするんですよ。

【木村】 すみません、JAIPAの木村です。

JAIPA、5日に理事会がありますので、5日だけ外していただければ大丈夫です。

【加藤】 理事会は何時からとかと決まっています？ 大体、通常は午後3時から6時とかというところが過去多かったんですよ。

【木村】 理事会、3時からなんです。

【加藤】　　そうですか。じゃあ、出る方で、JAIPA さんに関係あれば、5、6 でやれば、6 日のほうにさせていただくとか、何かそんな感じで。

【木村】　　そうですね、それは。

【加藤】　　もし火水になればですね。木金になるかもしれませんが、まだそこは今日時点ではオープンということで。ある程度、そういう意味では、その辺をターゲットというのを決めておいたほうが確かに皆さん、出る方も、いつなんだということも含めて、お願いするにはいいですよ。木村さん、そういうのでいかがですか。

【木村】　　はいはい、結構です。

【加藤】　　ありがとうございます。

それじゃ、日程はこの辺にして、あと、出し物として、何か自分たちも考えたいとか、まだ決定でも何でもなし、もちろんそういう段階ですけども、今年はこんなことを議論したいとか、出し物したいとか、何かそういうアイデアはございますか。恐らく日本 IGF で議論して、そういうものがリヤドに持っていけるとかいうことになれば非常にいいし、そうでなくても、IGF 本体のほうでも、こんなことを考えているというグループの方がいらっしゃれば、今それを御披露いただくと皆さんのイメージが湧くかと思うんですが、いかがでしょうか。

すみません、山崎さん、11月5、6、7、8。6からじゃなくて、5から8で候補にしておいていただけますか、一応。一応ですけども。先ほどの木村さんのはよく分かったので、なるべく。

【山崎】　　ああ、そう。5からでいいんですね。

【加藤】　　ええ。5からということでしょうか。どうしても5にJAIPAさん駄目であれば、6日のほうにJAIPAの関係者に出ていただくということも可能性としては。だけど、なるべく後ろのほうにするということで、その週という前提で。

河内さん、お願いします。

【河内】　　すみません。どんな内容にするかという話のほうなんですけれども、去年は、日本で、京都でやったときに、日本人の方がセッションのオーガナイザーとかスピーカーで出られる方が結構多かったんで、そういう方をお願いしてセッションの御紹介いただいたりしたと思うんですけど、今年は、ちょっと私がMAGでワークショップの審査をさせていただいたので、ほかのセッションとかほかの

テーマは全然分からないんですけど、AI とセキュリティーのテーマの担当だったんですね、私。60件ぐらいワークショップの提案を審査しましたけれども、日本人の方がスピーカーに入っていると、オーガナイザーはちょっと名前出ないので何とも言えないんですけど、ほとんどなかったと思うんです。なので、ちょっとほかのテーマは分からないですけども、去年みたいに日本人がオーガナイザーになっているセッションがそんなにたくさんあるとは思えないかなというのが正直なところなんです。だから、中身どういうふうにするかは、去年と同じようにするのは難しいかなというところだと思います。

【加藤】 ありがとうございます。実際にセッション応募はしていないけれども、こんなことをしゃべるといいとか、そうはいつでも、どうせ誰かに声かけられて自分もそのセッションに参加するとか、知り合いもこういうことをやろうとしているから、それに絡んで海外の人も入れてやってみようとか、何かそういうのも含めて御提案ございませんか。いつも振ってあれですけど、前村さん、JPNIC さんの関係、何か仕掛けられるというようなのは御検討されていますか。

【前村】 特に我々の中心関心はリソースマネジメントなものですから、そういうところで、それじゃホットなのかというと、我々がやるというよりも、NRI のどこかがそういうことを言って、ひょっとしてそれにジョインするかもぐらいの感じなんですね。IGF っていつもそうなんですけれども。それよりも、恐らくは、今の調子で準備委員会が進むと、新しい法人ができて、新しい体制でやっていると思うので、何でしょうね。正道というのか、本格的というのか、我々はこういうふうなジャパン IGF をやっていきたいんだというものがつくるといいなという気持ちはあります。それをどうやってつくるのかというのはまるで、何のネタがいいとかも言っていないんですけど、そういうふうなことだけ考えているという感じです。すみません。今頭の中にあることを取りあえず吐き出すと、そんな感じです。

【加藤】 ちょっと別の、これは解釈ですけども、ということは、例えば世の中で随分議論されている、さっきの河内さんでも、IGF にも提案が多かった AI について、別に IGF に提案するとか何かではなくて、AI に関するセッションをこの機会を利用してやっていただくとか、そのようなことも含まれるという感じでよろしいのでしょうか。

【前村】 それもそれでいいと思います。サブスタンスというよりも、どちらかというといろんな人にジョインしてもらいたい。そういう人たちもこの国内 IGF に出てくるんだという感じの、結構ハイプロファイルを頑張って連れてきて、そういうふうなパネルとかやれるといいなと、そういうふうなイメージがあります。

【加藤】 分かりました。

あと、河内さん、名指しであれですけれども、河内さんのほうでも、APrIGF とか、あとサウジアラビアで Day 0 を応募している案件とかありますよね。もしちょっと御披露いただければと思います。

【河内】 すみません。

【加藤】 私が勝手に指名して恐縮ですけど。

【河内】 8月のAPrIGFと、それから12月のリヤドにセッションの提案をして、APrIGFのほうは通ってしまして、リヤドのほうは、Day 0とワークショップと両方出したんですけど、結局ワークショップは僅かに通らなくて、Day 0のほうでやることになると思いますが、ちょっとまだそれも正式に、この間のMAGの会議で、少なくともワークショップは最終的に決まっているんですけど、まだあんたらは駄目だったという連絡が来ていないんですね。多分、事務局が取りあえず通った人たちに連絡して、受けるか受けないかという返事をもらって、中には出したけど受けないとかいう人がいると繰り上がったりするのか、ちょっとよく分からないんですけど、しかもDay 0のほうは、多分大丈夫と事務局には言われているんですけど、まだ正式に連絡来ていないので何とも、正式にはあんまりちょっと言えないんですけど、一応マルチステークホルダーについての、ちょっと中身、コンテンツをもうちょっとうちの研究会の中で詰めないといけないんですけど、セッションをやる、やりたいなど考えています。すみません。そんな感じ。

【加藤】 いきなり振った理由は、マルチステークホルダーについての何か検討会を、外国の人も含めてセッションとして提案したということで、台湾でもやられるということですからけれども、願えば、そのようなことをこの11月に検討していただくことはできますかというふうに伺わせていただいてよろしいでしょうかね。

【河内】 海外の方にどれぐらい参加してもらえるか、時差の問題とかもありますので、ちょっと分からないんですけど、少なくとも、一応うちの中でやっている研究会が主体になってこのセッションを提案しているので、研究会の方々をお願いして、御都合がつけば参加していただけるんじゃないかと思います。

【加藤】 ありがとうございます。皆さん、よろしければ、これも一つの候補として考えさせていただくということで、こういう形でほかに候補があればぜひお願いしたいのと、さっき前村さんから御指摘あった本格的な制度的なものをやるということであれば、過去、例えば去年結構、JAIPAさ

ん、JPNIC さん、関連されるセッションとかやられたと思うんですが、そういう方にも声かけて、この 11 月 4 日の週後半をターゲットにして企画しているけれども、今年もやっていただけますかというふうにスタートするということがよろしいでしょうかね。それで、2 日間、4 つぐらいあれば。あと、先ほどの前村さんのお話に乗っかると、もう一つ、もし新法人とか新体制がスタートしていれば、その御報告になりますけど、そうでなくても、こんな感じで議論が煮詰まっていますということもお話しできれば、それも一つのポイントになりますし、そんな感じの会をやると考えてよろしいでしょうか。それなら自分たちもやるというようなことが皆さんきっとおありだと思いますので、ぜひ次回までに、こういう形で今年も発表したいというのをお考えいただければと思います。いかがでしょうか。JAIPA さん、いかがですか。立石さんとか。

【立石】 それで私も特に異論はないというか、いいと思います。すみません。

【加藤】 話が急に膨らんであれですけども、前村さんが言われた本格的なものということになると、例えばプラットフォーム規制がどうだとか、そんなような議論をやるというのはちょっと IGF の日本報告会からはずれていますかね。皆さん、どう思われます？

【立石】 僕自身はずれてはいないというか、最終的に IGF で多分、IGF というのは国連の IGF の中で議論しないと多分本格的なプラットフォーム規制は始められないと思うんです。なので、ずれてはいないと思うんですけど、今、国内の議論の盛り上がり方も考えると、今年はちょっとまだ早いかなと。ほかの国の、ヨーロッパの規制はいよいよですけど、その前に、日本の場合だと個人情報保護法の 3 年見直し規定が確かその辺。

【加藤】 はい、はい、はい。

【立石】 多分そっちが先で、その後かなとか、すみません、ちょっと私まだまとまってはいないんですけど、いずれは持っていかなきゃいけないけど、まだ、国内でそういう論客いるかという、そんなにいないかなという、すみません、感じです。

【加藤】 ホリエモンが呼べるわけじゃないんですけど、偽情報とか、あの辺はいかがですか。あれも。

【立石】 そこは、今それこそいろいろなところで。

【加藤】 立法とか議論が進んでいますよね。

【立石】 はい。あと、NETmundial 行ったついでで、僕じゃないですけど、今日出ていないですけど、田中恵子さんのほうが動いていたりして、大学院のほうで動いていたりはそのので、そっこのほうは少しずつ話としては出てくるかなと思うんですけど、だから、ひょっとしたらそこ、ミスインフォメーション・ディスインフォメーションあたりは、セキュリティーとの絡みで僕も別のところで話はしていたりしますので、根本的に、こうやれば大丈夫だみたいな話じゃないですけど、少なくとも議論の端緒には就いているかなという感じはしていると思います。

【加藤】 あまりに IGF 的じゃないことをやるほうが視聴者も集まるかもしれないしという面もあるんですけどね。日本 IGF のちょっとメインテーマとかからはずれていると皆さんお考えであれば、その辺は注意してやったほうがいいと思います。

【立石】 でも、偽情報・誤情報、ミス・ディスインフォメーションは、そこはど真ん中じゃないかと思います。

【加藤】 ど真ん中ですよ。分かりました。もしそういうようなことも含めて御提案があれば。

【立石】 そうですね。

【加藤】 4つぐらいセッションができればいいのかなと思いますけれども。

前村さん、また振ってあれですけども、今のようなことも本格的なものと考えてよろしいですかね。

【前村】 もちろん、もちろん。

【加藤】 ずれているとちょっと。

【前村】 今その欄に書いてある AI、プラットフォーム、偽情報・誤情報、先週、JANOG では NTT 法の改正みたいなこともありましたけど、どれを取っても大問題なんですよ。そういうものを、そうですね、どちらかというところとやっぱり、どういう人が出てきて語るのかというほうが何か気になって、そこでちょっと本当に、大物と言うとミーハーみたいですけど、この人が語ってくれるんだったらという人が出てくれるといいな、なんていうことを思いますが、それに向けて私もできることをやろうと思います。

【加藤】 分かりました。ぜひお願いします。

さっき時間的に結構厳しいかなという話だったんですけども、準備委員会として、これつくりま
すかね。それとも、この活発化会議をもうちょっと頻繁にやって、あとはメーリングリストでもう進
めちゃいますか。その辺の感触はいかがでしょうか、皆さん。

【前村】 前村ですが、取りあえず活発化チームの中の議論でプログラム編成するということし
か多分ないと思いますので。

【加藤】 そうですか。

【前村】 その後に、決まっていくことが後から付け加わって行って、だったらこうできるかな
みたいなことを考えていくんだと思っています。

【加藤】 ありがとうございます。今みたいな話だけでも大分イメージができてきて、基本的
には例年のフレームワークで、2日間、午後3時間ずつとか、そんなイメージを考えておけばいいです
かね。

【前村】 同じイメージです。

【加藤】 分かりました。

【山崎】 山崎ですけれども、準備委員会をつくらないと、連絡とか全部私1人で駆けずり回っ
たのが去年です。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 ちょっとやりにくいな。ただ、そこまで時間を割ける方がいらっしゃるかというのは
あるんですが、ちょっと私としては準備委員会を募集したくなります。もちろん全体で並行して議論
していただくのは全然構わないんですけども、できればコアメンバーで.....。

【加藤】 もし準備委員会、コアメンバー数人で。

【山崎】 成り立つかどうかは分かりませんが、募集はしてみたいと。

【加藤】 準備委員会ということで、そういうボランティアを募集することがやっぱり運営上あ
ったほうがいいと。そこに全部任せるとか、責任を押しつけるわけじゃなくて、山崎さんを助ける会
をやるということであれば、もう今日ここで大体そういう方向性で決めちゃったほうがいいと思
うんですが、いかがですか。前村さんもそれでいかがですか。

【前村】 それで大丈夫だと思います。ぜひとも、山崎1人が何か。

【加藤】 そうなんです。

【前村】 ちょっとどうにかお助けいただきたいと思います。

【加藤】 そうですよ。いろいろな意味で、なるべくみんなが助けられる体制をやったほうがいいと思いますので、じゃあ、準備委員会として、少なくとも連絡等の事務局的な役割を果たしていただくメンバーを募集するということを決定としたいと思います。

あと、今日時点で決めていくことはございますでしょうかね。

今ちょうど映していただいているアジェンダの中に次回の話があるんですが、次回は3週間後か4週間後かというのがありますが、どちらでもいいと思うんですが、ちょっとこの準備委員会とかいろんなことを考えていくと、これから少し早めていったほうがいいと思いますが、もともとのサイクルに戻る必要はなくて、もし7月の29日の月曜日か8月5日の月曜日か、どちらかということだと、皆さん御都合はいかがですか。どちらかが非常に都合が悪いという方、同じ夕方5時からということでやる場合、7月29日と8月5日、どちらでもよろしいですか。

【立石】 私は大丈夫です。

【前村】 どちらでも大丈夫です。

【加藤】 よければあまり、ですから、8月5日にいたしましょうか。どうでしょうかね。それまで今の日本IGFの会議、全然進まない困るから、早めのほうがいいというのであれば、それでもいいですけども、どうでしょうかね。山崎さん、もうちょっと、その後でもいいんじゃないかというのがありました。

【山崎】 いや、私は候補を並べただけなので、皆さんの。

【加藤】 そうですよ。じゃあ、8月5日で、もうその頃にはかなり、今の話も皆さん持ち寄っていただいて、ぜひ準備委員会のメンバーも名のり出たいただいてということで、以前の準備委員会の方にも声かけて、今年もやっていただけますかぐらいのことを言っていただけるといいなと思うんですけども、8月5日でよろしいですか。特に。

【前村】 よろしいと思います。

【加藤】 特になければ、活発化チームの次の会合は 8 月 5 日、夕方 5 時からということにさせていただきます。

今の今年の報告会の開催について、今思いつくことで、何か御意見等ございますか。

いきなり振ってあれですけど、望月様、片柳様、総務省のデータ通信課のほうからも何かこの件で御提案とか御意見とかございますか。ぜひ今年も御協力というか、少なくとも精神的御支援をぜひお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

【望月】 すみません。望月です。

今、瞬間的に具体的なセッションの内容まで御提案さしあげることにはできないんですけども、おっしゃっていただいたように、最低限、もちろん精神的なサポートは力の限りさせていただきますし、精神的じゃないサポートも、できることがあればさせていただければと考えております。というぐらいいしか、すみません、申し上げられることはないんですけど。

【加藤】 ありがとうございます。それで十分でございます。本当にありがとうございます。

じゃあ、今年もこういう会をやらせていただくということで、去年の盛り上がりもまた忘れないようにして、ぜひ今年も IGF の会を日本でやっているということで、山崎さん、どうですかね。この程度だとちょっとまだ駄目ですかね。ピンポイントで日程が決まれば、IGF 事務局のほうに、今年も NRI、日本でこうやるというのを連絡できると思いますが、日程は大体この週の予定ぐらいで言えますか。それとも、決まってからでもいいですかね。特に急いで言う必要もないんですけども、どう思われますか？

【山崎】 私は日程が決まってから言ったほうがいいんじゃないかと思うんですけども。

【加藤】 きちっと決まったほうがいいですね。

【山崎】 一応、そうですね。そうすると、秋になっちゃうんで、11 月 2 週とか知らせるというアイデアは確かにありますけど、それがどれぐらい意味があるかということ。

【加藤】 意味があるかということ、特にそんなに大きな意味はない。日本もやっているよという、100 分の 1 ぐらいのだけで、特に大きな意味はないです。

【山崎】 終わったところも多数ありますから。

【加藤】 そうですね。

【山崎】 決まってからじゃないですかね。

【加藤】 そういうことにしましょう。それよりもぜひ、ここある AI だとか、偽り情報・誤情報なんていうのは、昨年もやっていただいた方にまず声をかけてみるという手もあると思いますので、その辺も含めてぜひ進めていただければと思います。

あと、皆さん、何か今日お話しいただくことはございますでしょうか。

【山崎】 山崎ですけれども、河内さんにお伺いしたいんですけれども、選定されたセッションとか、いつ IGF のウェブで公開されるかとか、もし予定が決まっていたら教えていただきたいんですが。それとも、もう既に公開されているんですけど。

【河内】 ワークショップは既にもう MAG の会議の中で、もうこれで最終版、最終決定でいいよねと合意されて、決まっているんですね。それ、さっきもちょっと言ったんですけど、事務局から連絡が個別に行くはずなんですけど、ワークショップの提案を私出しているの分かるんですけど、まだ来ていないんですね。私のは落ちているので、さっきもちょっと、その辺細かく聞いていないんですけど、まず通った人に連絡して、ちゃんと受けるかどうかの連絡を、要するに事務局が確認した上で、もしかして、提案出したけど、やっぱりやらないとかいう人がいると、落ちたのから繰り上がったとかするの、ちょっとその辺、何で落ちたのが後回しで来るのか分からないんですけど、ワークショップに関してはもう決まっているので順次連絡が来るはずですよ。それ以外のセッションについてももうほぼ決まっているから、もう順次出していくと言っていたんですね、先月の末に。だけど、そっちもまだ来ていないので、多分そのうち来るんじゃないかと思うんです。すみません、ちゃんと何日とかいうふうに発表されていないので、多分まだウェブには載っていないんじゃないかと思うんですけど。

【山崎】 分かりました。

【加藤】 山崎さんの質問は、外部に、一般に知らしめるかということですよ。それは今日時点でまだだということですね。

【山崎】 そうです。だから、要は、私が考えたのは、公開されていれば、そこを掘って、例えば日本の人が登壇しているとか、オーガナイザーでいるとかというのをピックアップできるかなと思

ったんです。河内さんがさっきおっしゃったように、確かに去年よりはうんと少ないとは思いますが、それができるかどうかというのを確かめたかったというのが質問の趣旨になります。

【河内】 多分まだ出ていないですけど、時間の問題で、例えば遅くとも今月末とかぐらいには出るんじゃないかと思いますが、ちょっとすみません、でも、确实、100%ではない。

【山崎】 分かりました。ありがとうございます。どっちみち、プログラム委員会が立ち上がるまでにそれ以上時間かかると思いますので、大丈夫だと思います。

【加藤】 ありがとうございます。ぜひ、去年こういう人にやってもらったということとか、今話題のトピックとかいうようなもので、それぞれ参加していただく方に声かけていただければと思います。よろしくをお願いします。

ほかございますか。

もしなければ、ぜひ準備委員会、皆さん参加していただければと思いますし、あまり役に立ちませんが、いつものとおり、山崎さん、私も委員会に入れさせていただきたいと思います。ぜひよろしくお願いします。山崎さんが準備委員会に入る前提で申し上げますけれども、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ということで、じゃあ、次回、8月5日、またお会いするということで、今日は皆さんどうもありがとうございました。